

# 保護者対応のヒント

～良好な関係を築くために～

調布北高校スクールカウンセラー

中越清子

# 保護者の役割と重要性

子どもの成長、発達に保護者は大きな役割を持っている。

子ども達の支援をする上で、欠かせないのが **保護者との対応**

⇒子どもが成長していく過程に保護者のサポートは不可欠。どのようにサポートされてきたのかを知ることが現状理解につながる。

⇒保護者と一緒に取り組むこと、力を借りることが子どもの支援にはとても重要。

しかし…

- ・ 価値観や生活形態の違いにより、よりよい関係を築くことが難しくなっている。
- ・ 生徒の抱えるの問題の根底にある原因のひとつが「親に由来する」と考えられる場合、

〔 保護者に全くその意識がない  
指摘されることを恐れる  
他人に介入してほしくない

⇒ 心を閉ざして固く構えてしまうことも

# 保護者が話に来る動機は…

不満や苦情、  
文句を言いたい

相談したいことが明確  
にある。質問等がある

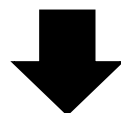
「呼ばれた」から  
「勧められた」から

# 保護者のタイプ

1. 問題を認識しているが、途方に暮れている保護者
2. 自分に問題があると感じている保護者
3. 周囲に問題があると訴える保護者
4. 問題を認識していない、否認している保護者

## 共通する状況は

- ・ 仕事・家庭や子どもの対応に追われ、日々疲弊している
- ・ 見通しの見えない状況、子どもの将来に不安を抱えている



ストレスをかかえている  
気持ちに余裕がない

## ①問題を認識しているが、途方に暮れている保護者

「困っている」という意識はあっても何をどう改善すればいいのかわからない。

なにが根本の問題なのかわからないので、誰に（どこへ）相談したらいいのかわからない。

⇒ ニーズの明確化をする。

問題が見えにくいときは、（問題を整理し）「どうなったらいいか」「何が必要か」など明確にしていく。

必要な支援を一緒に考え、交通整理が必要。

## ②自分に問題があると感じている保護者

問題の原因が自分にあると考え、自分を責め続ける。

「しっかりと子どもの面倒をみてください」等指導される、非難されることを恐れている。

⇒保護者の辛さや傷つきなどの気持ちをくみ取り、共感を示す。  
不必要に問題の原因を誰かのせいにしないように。

自信が持てるよう、小さな成功体験を積めるように支援する。



### ③周囲に問題があると訴える保護者

問題の原因は周囲（友達、学校、環境など）にあると考え、不満や怒りを抱えている。

「周囲が変わらないと問題は解決しない」と考えがち。

⇒相談に来たこと、周囲の状況をよく見ていることをねぎらう。  
じっくりと相手の言い分を聞く。

問題の周知について了承を得て、引き続き状況を見守ってもらう役割をお願いする。

一緒に問題を考えていく姿勢を示し、お互いの役割を確認、仲間になる。

（時間がかかるかもしれないが）SCや学校が「解決してくれる役割」を一方的に持つのではなく、「一緒に協力してよりよくしていくこと」を理解してもらう

#### ④問題を認識していない、否認している保護者

問題があることを全く理解していない。

認めたくない。

指摘されると反発しやすい。

⇒まずは来てくれたことをねぎらい、信頼関係を築く土台作りを心掛ける。

すぐに問題に対応させようとせず、少しずつ理解を促していく。

小さな変化と一緒に確認して、前向きなかわり続ける。

## 話の聞き方 3つの大切なこと

**傾聴**：傾聴とは、まず相手が何を伝えたいかに意識を向け、相手の話を注意深く、真摯に目、耳、心を用いて聴くこと。

**受容**：相手の存在を認め、言っていることについて先入観や自分がどうしたいかを一度脇に置いて、肯定的な配慮をし、話の本質的な内容を受け止めること。まずは批判や意見をせずに受け止める。

**共感**：話を聞いたうえで、相手の立場になって、その気持ちと相談するに至った背景（事情・心情等）やニーズを理解し共有すること。

# 大切なポイント

- ✓ 保護者は子どもの「一番の専門家」として接する。保護者にしかできない役割を再認識してもらう。役割分担することで、協力している仲間である認識になる。
- ✓ 「問題」ではなく「必要としていること」をさぐる。
- ✓ 問題を一緒に考え、協力する仲間であること、同じゴールに向かっていることを常に確認する。
- ✓ 子どもの問題、悩みで相談に来ているのに、保護者自身を「困った人」として扱わない。
- ✓ 相談に来たときは「おみやげ」があることが望ましい。次回の相談につながる。

## 参考文献

黒沢幸子 指導援助に役立つ スクールカウンセリング・ワークブック 金子書房  
2002年

学校問題解決のための手引き 東京都教育センター 2022年

どうもありがとうございました